

バス往復移動中における車内外観察調査報告

小松原 尚

I 調査目的

経済地理学や地域構造論の講義を踏まえ、地域における体験的学習を実施する際には、産業施設の見学は、教育効果を高める上で大切である。こうした学習活動を実施するためには、見学地までの移動費用の節約、時間の効率的利用を考える必要がある。そのために、バスツアーを活用する。バスは移動手段であると同時に、その中は学生たちの学びの場でもある。この移動教室を有効活用するためには、学びの主体として、学生自らが、この空間をどのように認識し、その利用に際しての問題点をどのように考えているかを実際にツアーバスに乗車させて、アンケート調査を実施し、彼らの意見を聴取する必要があると考えられ、そのために「バス往復移動中における車内外観察調査」を実施した。

II 調査方法

和歌山市にて開催された「第10回国内観光活性化フォーラム in 和歌山」への参加のためのバスツアーを利用することにした。この調査において、小松原のゼミ学生を教育研究協力者と位置付け、協力してもらった。

このツアーは、(一社)奈良県旅行業協会が主催し、上記フォーラム参加者を対象に無料送迎を行なうものである。調査費の節約の観点から、また地域の業界団体と大学との協働との観点からも恰好のツアーであると考えた。

調査報告

また、移動途中、「観光立市“御所”を目指す会バスツアー」（協力：株式会社サンキュー観光）の参加者も同乗した。尚、奈良県立大学は御所市と包括連携協定を締結している関係にある

Ⅲ 実施概要

調査実施日：2014年2月11日（火・祝）

【往路】午前7時45分から午前10時30分

【復路】午後4時20分から午後6時30分まで

和歌山市内の会場との往復バス移動中における車内外観察調査を行なう。各自筆記用具とノートを持参し、メモをとり、予め配布してある調査整理票に後で入力する。

1. 景観資源調査：車窓から眺められる景観で、興味があった地点とその内容を記す。
2. 危険発見調査：交通上の危険箇所、道路渋滞など、学習のためのバスでの移動に際して、注意喚起の必要な場所とその内容を記す。
3. 車内学習環境調査：学習の場として、バス車内を利用する場合を前提として以下の調査を行なう。
 - (1) 学生が予め準備しておくべきこと
 - (2) 車内装備としてあったらよいと考えられるもの
 - (3) 車内で安全にくつろぐための留意点

以上について、具体的に記す。写真も必要に応じて別途添付する。

※ 本調査は、平成25年度文部科学省大学改革推進等補助金の一部を使用した。

1. 景観資源調査

【活動事項】

車窓から眺められる景観で、興味のあった地点とその内容をいくつでも記す。

調査者番号	観察内容
1	奈良バイパス沿線に、イオンモール、ニトリ、ホームセンターなど大型の施設が立ち並んでいた。橿原バイパス沿線でも、奈良バイパス沿線と同じように大型の施設が並んでおり、両バイパス沿線の景観がよく似ていた。
2	イオンモール郡山、葛城山、岸和田市辺りのビニールハウス集団
3	国道24号の道沿線に店舗が多いが、周辺は田んぼしかない。イオンは非常に大きい。夜はライトアップされている。高速道路が延々と続く様は見事である。高架道路上からは土地の利用の様子がよくわかる。ちなみに、農地や住宅街や工場やビルなどが入り乱れていた。
4	郡山イオンモール、橿原イオンモール、高速道路上から見える雪山、高速道路上から見えるPLの塔、葛城公園、葛城公園付近の橋。
5	① 御所・橿原で、ビニールハウスに照明がとりつけられていたこと、② 橿原イオンモール・郡山イオンモールが、非常に広大な敷地面積であったということ、③ 和泉で、会員制倉庫型卸売店 COSTCO が建設中であったこと、④ 御所市の葛城公園がきちんと整備された公園であったこと、⑤ 京奈和自動車道の建設が進められていたこと、⑥ 先週の寒波により、山々に積雪がみられたこと。
6	御所市周辺は大きな建物が少なく、自然の多い土地である。また、御所市の中の一部の道は少し狭く感じた。今回、バスで市内を走ったが、もしもバスツアーを行うのならば、たくさんのバスが多く押しかけると住民に迷惑がかかってしまうのではないかと思った。和歌山県に入ってから、車の販売店と寿司屋（回転寿司チェーン店）が増えたように思った。交通手段として多く用いられているのが車なのか考えた。寿司屋に関しては、海が近いということが影響しているのだろうかと思った。
7	郡山市横田北付近（国道24号線）の植え込みに空き缶などのごみが捨てられているのが目立った。車内からポイ捨てしていく人が多いのかもしれない。御所市内の葛城公園が広々としていて遊具もあり、市民の憩いの場として活躍しているであろうことが想像できた。御所市内の葛城川に掛かる橋（桜橋）が桜模様をしており、景観を壊すことなく調和していた。大阪府東羽曳野市付近の山上一帯にビニールハウスが並んでいた。大阪ぶどう（デラウェア、巨峰、ピオーネ）を栽培しているビニールハウスであることが予測された。
8	羽曳野市でビニールハウス群を発見し、今までに見たことのない壮さに目を奪われた。そこで、何を育てているのか疑問に思い、大阪府による「大阪ミュージアム構想」ホームページ調べてみた。以下に挙げるのが、その結果わかったことである。大阪府は近畿最大のぶどう産地であり、羽曳野市、柏原市、太子町にまたがってぶどう園が広がっている。ちょうど、バス移動で通ったルートである。ここでは温暖な気候を活かした促成栽培が盛んであり、12月～4月頃はビニールハウスが丘陵地域を銀色に覆い尽くす様子は壮観で、羽曳野市駒ヶ谷の丘陵などからは、数百haのぶどう畑が一望できる。特に、府内のぶどう栽培は約400年の歴史をもち、山梨県について全国でも2番目に長く、台風や積雪などの天災、第2次世界大戦などの戦災を受けながらも、たゆまぬ農業者の努力によって産地として復興し、近代化や都市化という社会の激変を乗り越えて、現代も490haの園地が守られている。生産されたぶどうは、府内はもとより北海道から沖縄まで、全国に出荷されている。

調査報告

2. 危険発見調査

【活動事項】

交通上の危険箇所、道路渋滞など、学習のためのバスでの移動に際して、注意喚起の必要な場所とその内容をいくつでも記す。

調査者番号	観察内容
1	午前8時から10時の間、バイパスは空いていたが、帰りの午後5時から7時ぐらいの間は、かなり道が混んでいた。交通量が多い時間帯は、バイパスの乗り降りに注意しなければならないと思った。
2	京奈和自動車道の一車線の区間で、羽曳野周辺の料金所。料金所出口すぐに分岐があり危険である。サービスエリアとバスの間に車の通路があるので、サービスエリアに向けてバスから飛び出すと車に轢かれる危険性がある。
3	高速道路入口は工事中のため道がグネグネと曲がっている。高速道路の料金所を出てすぐに道が分岐していた。運転の仕方によっては事故が起こるかもしれない。急な割り込みや頻りに車線変更をする車を見かけた。
4	京奈和道路の所々が1車線になっており、道路の整備が未完成であると感じた。パーキングエリアの駐車場での車の往来。復路で京奈和道路が混雑していた。補助いすにもシートベルトが整備される必要がある。
5	休憩箇所であった岸和田サービスエリアでの駐車場である。車の影で通行者が見えず、急に飛び出してくるように見えることや車のスピードを出している場合も多く通行者と車の接触の危険性が高く、車道と歩道を分けた方が良いのではないかと感じた。
6	今回は道路渋滞などなく、スムーズに移動することができた。ただし、パーキングエリアでの休憩時、ほかにも似たバスが多く停車している場合が多いため、バスのナンバープレートや、なにか目印になるものを覚えておくとよいと思う。
7	御所中学校付近の道路が一部、大変狭くなっており、歩道の幅もごくわずかで、その歩道を挟んで蓋の無い溝が続いていた。中学生の通学路であることが予想されるので、何らかの措置をしなければ危険な箇所である。
8	御所市で、一部歩道が狭いところを発見した。ひとがぎりぎり通れるといったところだろうか。自転車の通行はもってのほかというくらい狭さだった。歩行者とすれ違う場合、特に、夜間や雨天時は十分な注意が必要だろうと感じた。また、もし可能であれば、ガードレールを設けた方が事故を抑制できると思う。

3. 車内学習環境調査

【活動事項】

学習の場として、バス車内を利用する場合を想定した調査

(1) 学生が予め準備しておくべきこと。

調査者番号	準備内容
1	下敷き（下敷きを忘れ、メモを取りづらかった）。早寝、早起き、朝ご飯（車内は眠くなりやすいので、十分に睡眠をとり、朝食を食べ、体調を万全にしておく必要がある）。
2	車に酔う人は酔い止め。文章を書きやすくするために固いバンダー。必ずシートベルトをする。
3	荷物はコンパクトにまとめておく。邪魔になったり散らかっていると集中力を欠く。バスが揺れるので、メモ用にパソコンを用意するといいかもしれない。
4	酔いやすい学生は酔い止めを常備しておく。また、酔いやすい学生は長時間文字を書いたり読んだりすることを控える。調査内容を把握し、メモをとりやすいように準備しておく。
5	① 車酔いしないために酔い止めを服用しておくこと。② メモを取りやすくするためにクリップボードなどを持参すること。③ あらかじめ通行ルートを確認し、注意深く観察する箇所を決めておくこと。
6	バスには机になるものがない場合があるため、バンダーのようなものを用意しておくともメモなどが取りやすい。
7	健康状態を管理すること。筆記用具と、バンダーがあれば尚良い。
8	いちばん大事なのは、自分の健康状態をよく知ったうえで利用することだと思う。もちろん、健康状態が良好なときが良いのだが、乗り物酔いしてしまう可能性もある。万が一に備えて、薬を持っておくと安心だろう。また、車内にはお手洗いが無い。休憩所まで時間がかかる場合、水分摂取を控えて乗車するのが良い。

調査報告

(2) 車内装備としてあったらよいと考えられるもの。

調査者番号	準備内容
1	カーナビゲーション（バイパスや高速道路は景色があまり変わらず、どこにいるの分からなくなるため、現在地を分かりやすくする）。
2	文章を書きやすくするためにテーブル。モニターとビデオなど。現在の場所がわかる地図など。
3	学習内容に関連したパンフレットなどがあれば良い。夜の車内は暗く、文字などが見難いため、手元が照らせる方が良い。筆記の場合バスが揺れて書きづらい。バインダーのようなものがあれば良い。
4	メモを取るための机。資料を広げたりするための十分なスペース（座席の幅を少し広く）。
5	① 学習を深めるために、視聴教材としてビデオを流してもらったりするとイメージが深まる。② 添乗員によるガイド。
6	タブレットなどの端末を配布することができれば、メモしたものを磁気データとして保存できるため、報告書などの作成の効率が良くなるのではないだろうか。また、液晶モニターなどがあれば、映像やスライドを見ることができるので学習しやすい環境になると思う。 上記の設備は難しくとも、机になるもの（新幹線などで前の座席についているものや、肘置きの中から出せるタイプのもの）があれば学習しやすい環境にできると思う。
7	新幹線のような、前の椅子の背から出せるテーブル。
8	今回利用したバスは古いもので、非常席部分にはシートベルトが無いということを目にした。いつ事故が起こるかわからないので、それに備えてシートベルトを設置すべきである。また、私自身、普段は交通機関を利用しての移動が多いため、念のためペンライトと笛を持ち歩いている。ペンライトは、事故で停電が起こった際に避難ルートを照らすため、笛は、助けを求めるなどに役立つと考えるためである。どちらも小さいものなので、持ち歩きしやすい。車内装備についても同様なことがいえるのではないか。

(3) 車内で安全にくつろぐための留意点。

調査者番号	準備内容
1	シートを倒したり、クッションやひざ掛けを持ち込んだり、シートベルトをしたままくつろげるように個人で工夫する必要がある。
2	シートベルトを必ず締める。多少の飲み物を用意する。サービスエリアできちんと休憩を取る。
3	飲み物はペットボトルなど蓋が出来るものにする。また、その温度には気を付ける。不測の事態に備えシートベルトは必ず着用する。
4	全席にシートベルト装備。冬場の寒い夜に移動する際は窓際がひえこむため、毛布やブランケットがあると便利。
5	① シートベルトを着用すること。② 走行中は、車内を歩行しないこと。③ 狭い車内なので、周りの人に迷惑がかからないように気遣うこと。④ 仮眠をするなど座席を後ろに傾ける時は、後ろの人にその旨を伝えて迷惑をなるべく少なくする。
6	長時間の移動などで座っている時間が長くなる場合、同じ姿勢のままでは体を痛めてしまうため、後ろの座席の人に確認をとり座席を倒したりしてリラックスした姿勢を心がけるとよい。また、バスは道によってはよく揺れるので乗り物酔いしやすい人はあらかじめ対策を行う必要がある（＝酔い止めを使う、あまり文字を読まないなど）。
7	補助席を含み、全席にシートベルトが完備されていること。
8	今回のバス利用時にも注意されたことだが、シートベルトの着用は安全にくつろぐために必要である。さらに、バスが動いているときの車内移動はなるべく避けるべきだと思う。京都市バスを利用しているも、これに対する注意喚起の車内アナウンスを耳にするが、最大の理由は転倒の恐れがあるためである。このような理由もあって、あまり身動きがとれないバス車内ではある。休憩所に着いたら、外の空気を吸って多少のストレッチをおすすめする。今回、御所市の皆様と乗り合ったバスであるが、その際お菓子(飴など)を配っていただいた。乾燥しがちな車内で、のどを潤すことができた。このような配慮も安全にくつろぐためには重要だと思った。

バス往復移動中における車内外観察調査整理票

調査者氏名

① 景観資源調査	<input type="checkbox"/> 車窓から眺められる景観で、興味のある地点とその内容を幾つでも記す。						
② 危険発見調査	<input type="checkbox"/> 交通上の危険箇所、道路渋滞など、学習のためのバスでの移動に際して、注意喚起の必要な場所とその内容を幾つでも記す。						
③ 車内学習環境調査	<p>学習の場として、バス車内を利用する場合に、</p> <table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>◆ 学生が予め準備しておくべきこと</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>◆ 車内装備としてあったらよいと考えられるもの</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>◆ 車内で安全にくつろぐための留意点</td> </tr> </table>	1	◆ 学生が予め準備しておくべきこと	2	◆ 車内装備としてあったらよいと考えられるもの	3	◆ 車内で安全にくつろぐための留意点
1	◆ 学生が予め準備しておくべきこと						
2	◆ 車内装備としてあったらよいと考えられるもの						
3	◆ 車内で安全にくつろぐための留意点						

註

- (i) ①から③のすべてにわたり具体的に記す。
- (ii) 欄外に記述内容がわかる写真も付けるとなお一層よい。
- (iii) 記入の枠は、必要に応じて各自の判断で拡大してよい。